

会 議 要 録

会議の名称	第3回 第6次村山市総合計画策定審議会
開催日時	令和6年10月30日(水) 18:30～:20:45
開催場所	農村環境改善センター2F 多目的ホール
構成員	出席者:(別紙名簿) 事務局:村山市政策推進課 受託者:ランドブレイン(株)
次第	1 開会 2 あいさつ(会長) 3 議事 (1) 第6次村山市総合計画基本構想(案)について (2) 今後の進め方について (3) その他 4 閉会
質疑応答等	
議事(1)	第6次村山市総合計画基本構想(案)について(総論)
・事務局より説明	
暦委員	まちづくりの課題の中の課題2について、「自然環境保全のため、脱炭素社会構築に向けた取組み」につながる事なのか。表現を修正した方が良いのではないかと。
高橋会長	事務局に表現の検討をお願いする
議事(1)	第6次村山市総合計画基本構想(案)について(基本理念)(施策の大綱)
・事務局より説明	
早坂委員	今後10年間の計画の柱となるということで、全てのことに繋がるような文言を入れたいところだが、今、読んだ感じでは不自然な部分はないと思った。「次の世代に引き継ぐ」と「次世代が受け継ぐ」という表現が、ぱっと見は同じように見えてしまう。「受け継ぐ」というところだけ気になるので別の表現にしてはどうか。
暦委員	次世代が受け継ぐという説明書きのところに、郷土愛の前後に「地域産業」といった文言を入れてはどうか。地域産業も受け継がれた方がよいと思う。
平委員	非常に耳触りのいい言葉が羅列されているという気がしてしまう。どうやって市として発展していくのかを考えた時に、あまりにも耳触りが良すぎないかなという感じがするが、「目指します」ではあるので、実現できるかどうかは未知数。明るさを求めるために敢えてそういう言葉を使うのは「あり」なのかなと思ったりもする。
高橋会長	最初の方の説明でデジタル田園都市国家構想の中身がよくわからないので、具体的にお教えいただきたい。 基本理念のところの文言そのものが綺麗過ぎだということかもしれないが、私たちの考えはこういう考えで、こういう考え方のもとにやっていくということが入っているのが理念。あまり具体的な言葉は入れないので、細かい部分まではいいのではないかと私自身は考えている。ただ、理念は非常に大事なところなので、文言はよく検討しなければならないだろう。
土屋(常)委員	今の時代から引き継いで、それを受け継ぐ若者がいてということはずごくわかるが、やはり同じようには聞こえる。「受け継ぐ」に代わるものとして何かもっとすっきり

した表現がないものかと考えているが、なかなか考えがまとまらない。

奥野委員

まず言えるのは、次の世代に自信を持って引き継げるまちづくりをするということ。次世代が受け継ぐとなると、子供が受け継がなくてはならないというニュアンスも感じる。子供は地域の宝であるというのがもともとで、その子供のために、引き継いでいけるまちづくりをするというのが、シンプルでいいのではないか。

高橋会長

子供がストレートに受け継ぐってということじゃなくてその子供たちが受け継いでくれるようなまちをつくるという表現にした方がわかりやすいということ。その点も含めて事務局の方にご検討願いたい。

柴田委員

基本理念なので、私はこのような形でいいと思うが、ただ次世代が受け継ぐというところについて、何をどういうふうに誰が受け継ぐのか。特に何が、ということに関してはこの表現ではよくわからないので、これから10年間でやっていくまちづくりを、次世代の子供たちが受け継いでいくということが分かるような表現にさせていただけたらと思う。

末永委員

理念としては本当に素晴らしい言葉で、結局良いまちとはこういうことなのだろうと思えた。例えば今の世代の人たちが、自分の子供が大学進学する時、東京とかに行ってしまうとなった時に、ここは良いまちだから大学を卒業したら戻って来いと言えるまちが結局良いまちだと思うし、出て行く子供もちょっと東京で10年くらいはバリバリやるかもしれないけど良いところだから戻ってきたいと思えるまちが結局良いまちなので、このコンセプトには非常に共感するところはある。

ただ、書き方のところが概念状で、読んでいて「すーっと」流れてしまうところがあると思う。本来理念というのは策定された後に市民の皆さんなりが、それを土台にディスカッションをして、各自の領域でこういう将来像を作るためにはどんなことをしていったら良いんだろう、みたいな議論が活発にされることがこの構想を作る目的の1つではないかと思ったときに、皆さんの心に残るような何かフックみたいなものをここで作りたいと思っている。理念のところが要件的になってしまうのではなく、理念の前に何かストーリーなど、少し入れたりすると皆さんの心に残るような基本理念になっていくのではないか。

高橋会長

理念というのは、住んでいる人たちだけじゃなくて、それを見た人たちもそうだが、すっと頭の中に入ってきて、なるほどねという部分があればいいと思う。今のパナソニックの前身の松下産業を作り上げた松下幸之助が言った、理念がない会社は倒産するという言葉が鮮明に心に残っている。理念がしっかりしているか、いないかで、構想もきちんと肉付けされてでき上がってくると思うので、今、色んなご意見をいただいたがそれを参考にして、もう少しこの部分について修正或いは加筆していくように事務局の方も含めて再度検討していきたい。

19 ページの将来人口について、パターン2をとるということに関して皆さんの意見をお伺いしたい。

大山委員

村山市の合計特殊出生率1.09という数字には少々驚かされた。村山市の子育て施策や国の政策も第3子から非常に手厚いので、そういったところで増えていって欲しいということも踏まえて、「パターン2」に基づくというのは現実的な数字かと思う。

柴田委員

この人口減少の想定に関してはこれで良いとは思いますが、この夏に少々研修を受けた際、村山市の20代の女性が50年後に半分以下になるということを知り、少々ショッ

クを受けてきた。そうなってくると、出生率の向上に力を入れるということも非常に厳しくなってくるかと思う。人口減少のところも少しポイントを絞って、どういうふうに移行していくのか。要するに人口、子供の出生率を上げるために、どこにポイントを絞ったら良いのか、はっきり分かるような形で示してもらえば良いと思う。山形県でも、東根と山形と天童と米沢と南陽と寒河江では、20代はあまり減っていない。それ以外のまちで減るのは何が原因なのかもぜひ考えていただきたい。

高橋会長
柴田委員

20代の人口が減っていく要因としてはその場ではどのように説明されていたのか。

色々な要因が重なって、減少が進んでいるというようなこと。例えば東根市にはさくらんぼが日本一という産業があって、まちとして誇れるものがある。そのまちで何か誇れるようなものを持っている市では、ある程度女性が残っているという話は出たが、具体的にこれがこうだという経緯はまだはっきり分からないようだった。

高橋会長

高校生や市民向けアンケートを見た限りでは、もっと厳しいアンケート結果が出てくると思っていたが、村山市が悪いと表現しているような人は、さほど多くなかった。村山市に若い人たちがどういうふうになれば戻り、ここで生活したいと思うのか、どういうことをすれば、そういうふうになってくるのか、計画或いは細かい施策の中に盛り込んでいけたらもう少し若い人たちがここに住んでくれるのかと思った。皆さんもそのアンケートを見てどういうふうにお考えになったか、お伺いしたい。

平山委員

今回のアンケートは非常に興味深く、いろいろなものに活かせる非常にいいアンケートになったと思う。ただ今日の資料を拝見したときに、このアンケート結果がこの計画案にどう反映されてきているのか、というのは見えてこない。そこを表してもらいたいということでもないが、やはりせつかくのアンケート結果をどういうふうに計画に投影していくかという部分が、村山市を盛り上げていく一つの材料として非常に重要かと思う。

鷹委員

基本構想に掲載のアンケート結果に関して、ある程度大人になった人は、住みよいか住みにくいか選択しやすいが、高校生に対してそれを聞いてしまうと、また村山市にしか住んでいないから、どちらでもないという項目に入れてしまうと思う。例えば高校生に対しては「どちらともいえない」という項目を無くすと面白い結果が出てくるかと思った。

高橋会長

人口減少については、村山市だけではなく多くの市町村がこの問題を抱えていると思うが、今のご意見等も含めて、人口減少をどういうふうを考え、できるだけ減少率が下がらないようにしていくか。計画に盛り込めれば一番いい。

工藤委員

作業部会の時にも話題になったが、高校生の約30%が卒業してからも村山には住まない。その理由の1番は、村山市に希望する進路が無いこと、2番目に村山市に愛着が湧かないというのが非常に多かった。逆に「住みたい」というふうに答えている人たちの、一番の理由は、生まれ育ったふるさとだから、それに愛着を感じているというのが70%ある。あと村山市に友人知人がいるから、あとは村山市に希望する進路があるからというのが約1割程。今は分からないという半分くらいの子供たちが、自分たちが希望する進路がある。そして愛着がある。そんなところを強くして、将来の見通しや自分に合った職業とか、少しずつ増やしていけば人は増えていく可能性はあるのかなと思う。

高橋会長

なかなか村山市の中だけでこれからの子供たちの進路を満足させるような、例えば高等学校や大学みたいなものを作れといてもなかなか難しい点はある。先程の話に

もあつたが、やはり米沢は上杉藩、東根はさくらんぼ、みたいな、歴史や文化や産業に若い人たちは魅力を感じるようなところがあるのではないか。村山市で他と同じようなことはできないかもしれないが、村山市が持っている文化的な面、歴史的な面だとか、若い人たちがそういうものを、自分の「ふるさと」っていうものを誇りに思えるような歴史、文化をもう少し前面に押し出して、教育の中で取り入れながらやっていくということも大事ではないかと思う。他の市町村と同じようなことをやれと言っても、やはり無理なところもあって、村山市は村山市なりに独自のものをやっていかなければならない。そこをどう考えて、この計画に盛り込んで、醸成していくかというあたりのところが大事なのではないか。

鈴木委員

そもそも人口が減って行って、本当に村山市が微妙なところになってしまうのかというのは、また違う問題かと思っている。一般的に見れば人口が減れば、活力とかがなくなるかもしれないが、人口が減っていくにしても、一人一人が本当にイキイキ生きていたり、輝いたりしていれば、村山市としての魅力が消滅するものでもないという発想があつていいと思っている。当然人口減のままは良くないことだと思うが、減ったとしても、他の自治体、地域よりも圧倒的に魅力的な人が多く居たりすれば、それは果たして悪いことではないのかなとも思う。

平山委員

人口減少自体は既に全国的な話で、村山市だけの問題ではない。市町村での取り合いのようなことをしているよりも、先程あつたように、やはり人口が減っていくのが当たり前だという考え方からすると、人口を流出させないのではなく、関係人口、交流人口の創出みたいなものも関連してやっていかないと、来てくれる人が喜んでいってくれるという面も、まちの魅力の一つになると思う。

高橋会長

ここを訪れてくれたり、或いは関係を持ってくれる人たちが、村山市に来て「良いまちだ」というふうに思ってくれる、ここを訪れてくれる人も増やしていくっていうふうな考え方もあると思うし、そこはやっていかななくてはならないと思う。今のようなことも踏まえて、今後、人口問題をどのように計画の中に取り込んでいくのか、少し検討させてもらいたいと思う。

(施策大綱 基本目標1)

三宅委員

書かれてあることは大変魅力的だと思うが、幅広過ぎて、ここからどう焦点を絞っていけるのかということと、現状がどうなのかというところ。特に子供、子育て支援の部分で12施策もあげられているが、小さい子供さんの環境整備や8番目の児童虐待対策とか、最近の村山市の実情はどうなのか知りたいと思った。こういった、人が少々目を背けてしまうようなところにも焦点を当てていただいたので、そこは非常にありがたいと思う。

住みたい・住み続けたいまちの構築の部分では、除雪がやはり一番のネックになってくると思う。子供に楽しく思ってもらえる村山市というのは、つまり親御さんが村山市に、住んでいただかないと、子供にばかり焦点を当ててもどうかと思う。私の職場では東根に転出する若い人が多く、やはり理由としては雪が多いというのが一番。除雪に対しては、降るものだという感覚でいる私たちの年代と違って、やはり核家族化、自分たちで独立してどこを選ぶのかといった際に、必ず「雪」が引っかかってくる。少しでも雪が少ない近隣地域ということで東根や天童が選ばれているのではないか。アンケート結果からもわかるが、村山市自体への愛着というのはどの年代でも高く持たれ

ていると思う。ただ、そういった人生のターニングポイント、就職、進学、独立といった場面で選んでもらえるまちとなっていくところ、そこを外してしまっは、なかなか机上の空論のような気がしている。

(施策大綱 基本目標 2)

柴田委員

新たな都市の基盤の整備というところで、駅西エリアというのはどこからどこまでなのか、また中心市街地と記載があるがこの中心市街地は具体的にどの場所をいつているのか。

事務局

駅西エリアは13号線の西側、現在、ヤマザワ村山駅西店の周りのエリアを指している。中心市街地については、楯岡の旧国道13号線の沿線を指している。

(施策大綱 基本目標 3)

高橋会長

DXについて少々説明をお願いしたい。

事務局

資料4ページのイメージ図をご覧いただきたい。国で構想を作っているのだが、基本的な考え方としては、国の施策として全国どこでも誰もが便利で快適な暮らせる社会を目指すことを理念として、例えば、生誕から小学校まではGIGAスクール、20代では行かなくてもよい市役所、40代でサテライトオフィス、60歳を過ぎたら、データヘルスシステムなど、基本的にデジタルの基盤整備を行っていくところになる。

平委員

デジタルでいろんなことをしようとすると縦割り行政の弊害も出てくるかと思う。そういったところ、将来の市役所の在り方も含めてこういう構想を出したのか疑問に感じた。

事務局

村山市の公式LINEアカウントもあるが、皆さんに登録してもらえれば、デジタルでいろんな情報をお届けできる。一方、デジタル化について、村山市民全員が対応できるわけでもないの、デジタル化も進めつつ、アナログの方も存置しながら、市民にやさしいまちづくりを進めていきたいと考えている。

高橋会長

将来的には、こういった方向に向かっていかなければならないところで、村山市としても取り入れていくべき項目なのかと思う。

(施策大綱 基本目標 4)

檜山委員

この通りに進めていただければ有り難いが財政的に大丈夫なのか心配に感じた。

高橋会長

この基本構想をもとに、次に具体的な個別事項まで計画の中で検討されていくと思う。その際にまたご意見いただきたい。

平委員

村山市の見守りシステムは非常に素晴らしいと思う。

一般市民対象アンケート結果について、20代と60代の方の「どちらともいえない」が多いのが気になった。20代では判断する基準がわからないというのは理解できる。60代の方たちには未婚の子供たちがいるので、その方たちが良いところだよとってくださらないと、子供達も住み続けたいとは思わないのではないか。次のアンケート調査からはこの選択肢を消してもいいのではないか。

(施策大綱 基本目標 5)

工藤委員

目標の未来を担う人を育むまちづくりのところで、事前送付資料では人材となっていたのが「人」になっていたのととても良かったと思っている。やはり人を育てる、人間性を育てるところが前面に出てきて良かったなと思う。

今、学校教育をめぐっては、ウェルビーイングとか、少し前にはアクティブラーニングといったことで、すぐ横文字に溢れてしまう。ここにある知徳体の確かな学力、

豊かな心、健やかな体という言葉に新鮮味ないかもしれないが、やはりこれをしっかりと育てていく。あとは、その下に知識技能の確実な習得とあるが、昔のような年表を覚えるといった知識ではなく、覚えた知識が何かと繋がって、新しいものをつくり出していくという面の教育なので、未来を拓く確かな学力という、数値に表われるものももちろん、自分で課題を見つけていこうという部分を大事にしていくことが必要。村山の教育が選ばれていくこと、英語教育でも幼稚園からずっとALTを派遣していて、中学校を卒業する時には、日常の会話ができるようになるとか、職場の体験ができるといった、学校教育を「売り」にしている村山市みたいなところが詰まっていて、良かったと思う。

高橋会長

第6次計画としても、やはり教育分野には非常に力を入れようとしている。教育は若い人たちにとって非常に魅力的なことで、かなり幅広い教えを持った人をつくるという意味でも大事だと思う。

土屋（常）
委員

具体的な、例えばこういう取り組みをしていきますということで、教育のあり方みたいなことを具体的に示してくださっているが、10年間では、必ず学校統合という動きが含まれてくると思う。西部地区構想であったり東部地区構想であったり。それがここには一切なくて、学校施設環境整えるとかDXとか人材とかあるが、やはり我々からすると西部地区の義務教育学校をどうするのか、また東部地区はどうなのかという部分に関心がある。どうもその環境の部分が見えてこないと感じた。

鷹委員

個別施策の4つ目、教育DXとあるが、もう少しわかりやすい表現にして欲しい。あと、デジタル人材とは何なのか。デジタルができる人たちを増やしていくというのは分かるが、何か文言的には少し違和感がある。

奥野委員

教育分野というと、やはり小学校、中学校とかそういう話が多くなると思うが、保育園や幼稚園についても、子供にとって教育の大事なステージだと思う。今すぐ計画に組み込んでいただきたいというのではないが、国に子ども家庭庁というのができていて、一方、市役所では、子育て支援課は保育園とかを管轄し、学校教育課は学校を管轄するというふうに、まだ一体化されていない部分がある。教育の話をする場面で、その弊害が残っていると思う。

事務局

学校教育課と子育て支援課を一体にするということになると、役所の組織改革の話になる。具体的な施策は次の基本計画の部分になるが、この10年間の基本構想で明記するところではないので今後の課題とさせていただきたい。先ほどの土屋委員からもお話あったハード部分に関して、ここに明記するかどうかについては、教育委員会、学校教育課と相談の上、早急に判断したいと思う。

高橋会長

基本構想としてどういうふうに入れていくか事務局の方をお願いしたい。
(施策大綱 基本目標6)

高橋会長

この辺で大体ご意見いただけたようなので、時間も大分超過した関係で、ほか特に無ければ本会はここまでとさせていただきたい。

本日、皆さんからご提案、ご意見いただいた内容を含めて、この構想案の修正についてご検討いただきたい。

事務局

本日ご議論のなかで、まちづくりのコンセプト、次の世代に引き継ぎ受け継ぐ魅力あるまちの将来像についてご意見いただいたが、「引き継ぎ」と「受け継ぐ」が同じようだということもあり、この将来像について、本日議論するには時間が足りなかった

土屋（常） 委員	<p>ので、皆様から1週間以内ぐらいで案を頂戴できればと考えている。</p> <p>末永委員の方から前振的に、何かストーリーのようなものがあると良いという話があったが、それで良いのではないかと。人口が減っていくとかマイナスな方向ではなく、自然豊かで人が温かいといった、そういう村山市を未来に繋ぐために我々は10年の構想を立てるのだ、というプラスで考えていけるような内容があればいいと思う。</p>
高橋会長	<p>いわゆる基本理念に関わるストーリー的なものがあるって、こういうことをこういうふうにやっていくんだよ、ということがあれば非常に分かりやすいかなと思う。その部分に何を盛り込むか、案として少し作っていただければ良いのではないかなと思う。</p>
事務局	<p>その他、事務局から如何か。</p> <p>事前配布資料には基本構想内に「土地利用構想」について記載していたが、その後、別途に都市計画部門の関連計画として策定することとしたため、基本構想からは除外したのでご了承いただきたい。</p>
議事(2)	<p>今後の進め方について</p>
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明 <p>今後の策定進行をお願いします。</p>
議事(3)	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

以上